

# GREEN ACTION

グリーン・アクション

606-8203 京都市左京区田中関田町 22-75-103

Suite 103, 22-75 Tanaka Sekiden-cho, Sakyo-ku, Kyoto 606-8203 Japan

[www.greenaction-japan.org](http://www.greenaction-japan.org)

## **Green Action Report**

May 2022 ~ April 2023

**Lawsuits / Webinars / Submissions / Symposiums / Booklets / Leaflets / Protest Statements**

A sample of our work

## Putting and End to US-Japan Nuclear Energy Cooperation on Fast Reactors

Green Action worked with non-proliferation experts to address problems with The US DoE and Japanese government cooperation on fast reactor development.



New Diplomacy Initiative

<https://youtu.be/GhxP7VYrqEk>

Speakers:

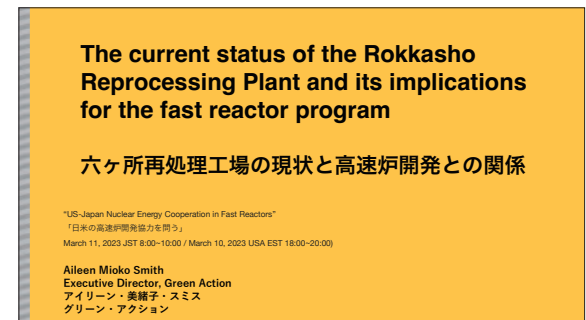
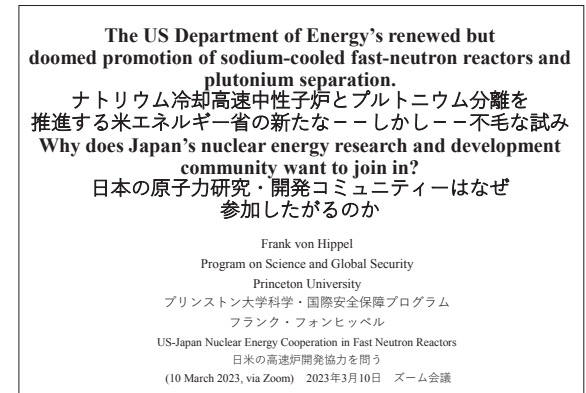
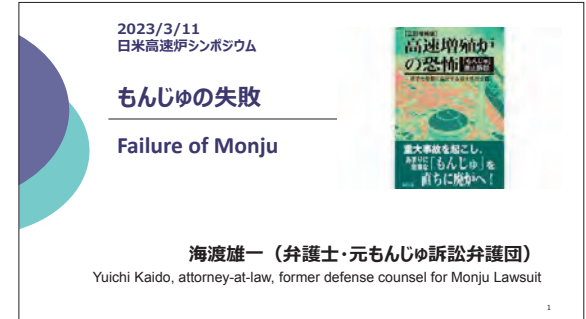
Former Director of the US Nuclear Regulatory Agency (NRA) and three other speakers

including Green Action's executive director.

March 11, 2023

Presentation by Green Action executive director:

“The current status of the Rokkasho Reprocessing Plant and its implications for the fast reactor program”



## Japan's climate policy 'failed to build on the legacy of Kyoto'

More than two decades on from the protocol, country shows enthusiasm for nuclear restarts over renewables



Onagawa nuclear power plant is set to begin generating electricity in 2024 for the first time in more than a decade. Photograph: Justin McCurry/The Guardian

The Guardian December 10, 2022

*"The Japanese government is using the 'we will do it with nuclear' mantra as a way of delaying real work on climate change," said Aileen Smith, executive director of Green Action.*

*"Nuclear power is expensive," Smith said, citing plans by Kansai Electric Power, which serves the region where Kyoto is located, to spend over ¥1tn (£5.9bn) over the next five years on climate change, with 70% of that investment earmarked for the nuclear sector. "It means money will be spent on a less effective, more expensive way of reducing CO2 emissions. And it won't be that long-lasting, since the nuclear plants are old."*

<https://www.theguardian.com/environment/2022/dec/10/japan-climate-policy-failed-to-build-on-the-legacy-of-kyoto>



From "The Human" (NHK BS-1 channel)

NHK one-hour program on Green Action executive director Aileen Mioko Smith.

NHK BS-1 channel

Series: "The Human"

Title: "MINAMATA – the 52nd Year ~ Aileen Mioko Smith" (Informal English translation by GA.)

Broadcast dates:

- Domestic - February 5, 2022 (two reruns thereafter)
- World Premiere - February 24, 2022

<https://www.nhk.jp/p/ts/6GLVG6Q9P4/episode/te/V7271NP4ZG/>

*The program covered Aileen's connection to Minamata and bridged Minamata to nuclear issues. It showed study tours with university students and the lawsuit in Nagoya (administrative lawsuit to stop aging nuclear power reactors).*





## LAWSUITS

We continued this year fighting in the courts.

The Ohi Unit 3 and 4 lawsuit\* continued in Osaka Appellate Court. All sessions were closed (only judges, court officials, plaintiff representative and lawyers, and defendant lawyers with Kansai Electric lawyers present. No photography allowed.)

*\*Defendant: Japanese government. Plaintiff: 134 citizens - Green Action's executive director is co-chief plaintiff.*



The photographs here feature the Nagoya aging nuclear power plant lawsuit.

Court sessions:

July 8, 2022, October 3, 2022

December 16, 2022

March 13, 2023



## Opposing the use of weapons-capable plutonium in commercial nuclear reactors: MOX (uranium/plutonium mixed oxide) fuel utilization program

抗議声明 (2022.9.17)  
高浜原発用の MOX 燃料の輸送に強く抗議する

本日 (2022.9.17) 関西電力の高浜原発用の MOX 燃料がフランスのシェルブール港を出発した。9月7日にクレーンの故障のため、積み荷が中断していたものである。高浜3・4号炉のプルサーマルを継続するための輸送であり、輸送自体が危険を伴う。この輸送に強く抗議する。

今回は、関電が32体発注した「第3回製造分」のうち、昨年11月に16体到着した残りの分(おそらく16体)である。このように小分けにして製造したのは、製造会社・MELOX社の機能が正常ではなく、製造能力が著しく落ちているためである。たとえば2015年には124トン製造したのに、2021年には51トンと約4割に落ち込んでいる。それに関連して、MOX燃料に危険なプルトニウム・スポット(プルトニウムの塊)が生じていることがフランスでは大きな問題になっている。

そもそもプルサーマルは、本来ウラン燃料を燃やすはずの炉で、異質な核特性をもつプルトニウムを燃やすものである。特にプルトニウム・スポットがあるとその部分が異常に激しい燃え方をするので危険である。品質の疑わしいこのようなMOX燃料は使うべきでない。

フランスでのMOX製造能力が落ちるに伴って、それに全面的に依存している高浜原発のプルサーマル規模も落ちてきている。本来なら1基当たり40体のMOXを用いるはずが、せいぜい半分の20体にとどまっている。

高浜3・4号炉はただでさえ危険な原子炉である。両炉でこれまで6回も立て続けに蒸気発生器伝熱管(細管)の外側に割られるという事故を起こしている。伝熱管の厚み1.27mmが最小で約0.5mmにまで薄くなり、それで約100気圧差を支えている。その傷の原因となったとされる異物またはスケール(鉄の微粒子の薄片)は、未だ明確に特定されていない。すなわち原因が不明のまま運転が続いている。そこに危険なMOX燃料を燃やすなど、もってのほかである。

MOX燃料を燃やせば使用済みMOX燃料が生まれるが、これは現状では運び出す所がなく、原発敷地内のプールで100年以上も保管するしかない。子々孫々に多大な負担を強いることになる。このような使用済み燃料を生み出すMOX燃料は使用すべきでないことは明らかである。

MOX燃料を用いるプルサーマルは即刻中止すべきだ。プルトニウムを生み出す六ヶ所再処理工場は26回目の完工延期を9月7日に決定した。高レベル廃棄物処理も決まっていない。核燃料サイクルはそのあり方を全面的に根本から見直すべきである。

2022年9月17日  
グリーン・アクション  
京都市左京区田中園田町 22-75-103 Tel: 075-701-7223 Fax: 075-702-1952  
美浜・大阪・高浜原発に反対する大阪の会(美浜の会)  
大阪市北区西天満 4-3-3 星光ビル3階 Tel: 06-6367-6580 Fax: 06-6367-6581

Protest statement issued against Kansai Electric's MOX fuel shipment from France to Japan.  
*September 17, 2022*

抗議声明 危険なプルサーマルは即刻中止せよ  
使用済みMOX燃料は、高浜原発が廃炉になってもプールで冷却しなければならぬ

本日(11月22日)、フランスから高浜原発にMOX燃料が輸送されてきた。昨年11月に続き、フランスからの輸送は5度目となる。プルサーマルを推進し続ける関西電力に強く抗議する。

プルサーマルは、本来ウラン燃料を燃やすはずの炉で異質な核特性をもつプルトニウムを燃やすもので、通常のウラン燃料よりはるかに危険になる。

関電は、1999年の英国BNFL社製不正MOX事件以降、製造元をフランスに変更した。しかし、そのフランスで製造が困難になっている。MOX燃料に特有の危険なプルトニウム・スポット(プルトニウムの塊。異常に激しい燃え方を生じていることが大きな問題になり、製造能力が落ち込んでいる。それに伴い高浜原発のプルサーマル規模も縮小となり、本来1基当たり40体のMOX燃料を用いるはずが、せいぜい半分の20体にとどまっている。品質の疑わしい危険なMOX燃料は使うべきでない。

さらに、使用済みMOX燃料は六ヶ所再処理工場では処理できないため、原発敷地から運び出すことができない。使用済みMOX燃料を処理するための「第二再処理工場」は政府の計画からも消えている。原発敷地内のプールで100年以上も冷却・保管するしかない。高浜原発が廃炉になっても、厄介な使用済みMOX燃料は残り続け、子々孫々に多大な負担を強いることになる。

プルサーマルを実施している高浜原発3・4号炉では、事故やトラブルが頻発している。蒸気発生器の伝熱管(細管)の外側に、定期検査のために傷が見つかり、両炉で6回も連続して起きている。伝熱管の厚み1.27mmが最小で約0.5mmにまで薄くなり、それで約100気圧差を支えている。傷が貫通し伝熱管が破断すれば、一次冷却水喪失という大事故に至る危険がある。しかし、傷の原因を明確に特定することもなく運転が続いている。そこに危険なMOX燃料を燃やすなど、住民の安全をないがしろにするもので到底許されない。さらに関電は、高浜原発の40年超運転に向けた準備を進め、老朽原発でプルサーマルを継続しようとしている。

政府は新たな原発推進政策を推し進めようとしている。原発の運転期間「40年原則」の撤廃、老朽原発の運転継続、増設・リプレース、核燃料サイクル政策の継続等々。核燃料サイクル政策が破綻している現実も、原発推進によって大量に生み出される核のゴミの現実にも目を向けようとする。福島原発事故の教訓を省みようともしない、これら無責任極まりない原発推進を許すことはできない。

プルサーマルは即刻中止せよ。政府の原発推進政策を止めよう。

2022年11月22日 ふるさとを守る高浜・おおいの会/ グリーン・アクション/ 美浜の会/  
原子力規制を監視する市民の会/ 国際環境 NGO FoE Japan  
この件の連絡先: グリーン・アクション: 京都市左京区田中園田町 22-75-103 Tel: 075-701-7223  
美浜の会: 大阪市北区西天満 4-3-3 星光ビル3階 TEL: 06-6367-6580

Protest statement issued against MOX fuel utilization at the Takahama nuclear power plant: "Spent MOX fuel must be stored on site even after the Takahama reactors are decommissioned."  
*November 22, 2022*

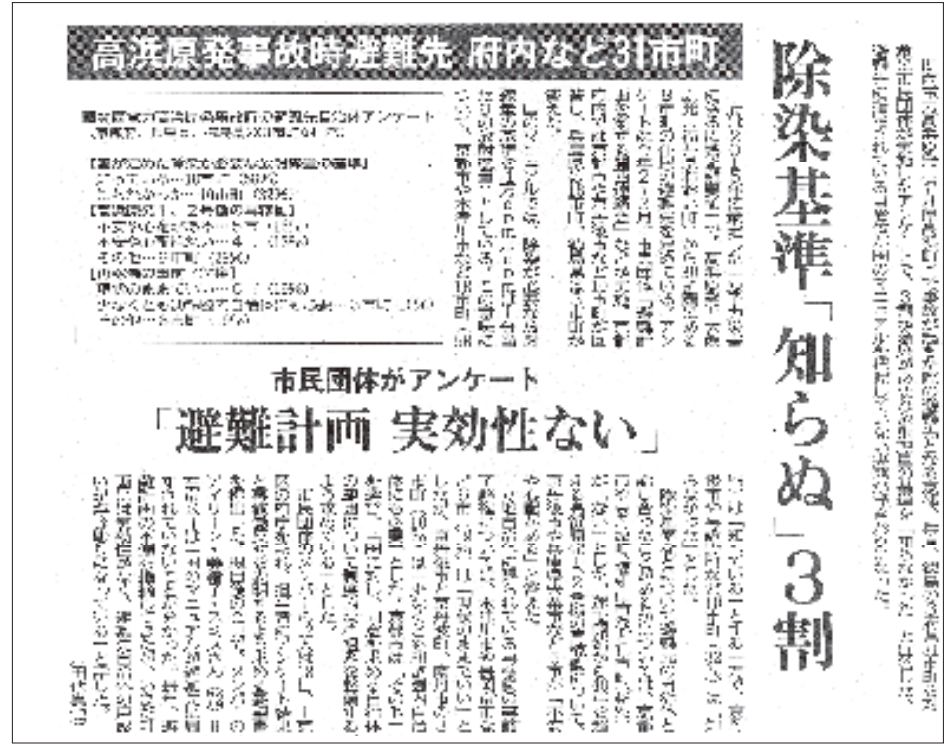


# Nuclear Power Plant Emergency Evacuation Planning in Central Japan

Survey of towns and cities in Kyoto Prefecture - evacuation sites for 125,000 citizens.



Delivering our petition to Kyoto Prefecture.  
April 18, 2023



Article about about our survey in Kyoto Newspaper.

Headline: "Evacuation Plan Not Effective"

April 19, 2023

Our survey found that one third of cities and towns receiving evacuees did not know the contamination levels of radiation which will be allowed to be brought in to their evacuation sites.

Half the cities have not yet coordinated with the towns and cities from where they would be accepting evacuees.

高浜原発事故時の避難先自治体へのアンケート（避難元 京都府）回答率84%

### アンケート結果の概要紹介

「避難計画と高浜原発1・2号の再稼働に関するアンケート」

・最も汚染されているタイヤ接触面の検査なし	「知らなかった」42%
・検査の内容等について避難所（学校等）への周知	「伝えていない」58%
・避難元自治体や府県との話し合い	「ない」48%
・40年超えの高浜原発1・2号の再稼働に不安・心配	「ある」16%/「ない」13%
・意見や判断を問う質問では「無回答」が多い	
・「国・県のマニュアルの通り」等のコメントが多く、独自の意見・判断を避けている	

#### 【アンケートの趣旨】

関西電力は、国内で最も古い高浜原発1号（運転開始から48年）、2号（47年）を6・7月に再稼働（送電）しようとしています。そのため、私たち関西と福井の3団体は、高浜原発事故時の避難先となっている自治体に、次頁に記している要領でアンケートを実施しました。回答率は84%にもなりました。ご協力いただいた自治体の皆さまに感謝いたします。

私たちは、避難時の検査基準が高すぎること、検査がすすんでいないこと等を危惧しています。今回のアンケートでは、避難時に実施される「避難退域時検査」の基準の意味、車両や住民の検査方法、これに対する意見、及び高浜原発の再稼働等について意見を尋ねました。

#### 【結果の特徴】

1. 避難所のマッチング（避難元住民がどの避難所に入るかの具体化）は、ほとんどの自治体で作成され、形式的には避難計画の基本は完了していました。
2. しかし、国がマニュアルで定めている、避難時の検査・除染の方法（例えば、汚染が激しいタイヤ接触面は検査・除染しない）については「知らない」との回答がまだ多いことに驚いています。国のマニュアルさえ、周知されていないのが実態です。
3. 除染の基準は甲種被曝で300mSvに相当する高い基準です。甲種被曝が300mSv未満の場合は、問題なしとされています。この基準で「問題ない」との回答は32%にとどまっています。【自治体だけで「基準は高すぎる」との回答もありました。65%が「無回答」で、自治体から独自に書いているコメントでは「安全な値であるか分らない」「国、県のマニュアルのとおり」等があり、独自の意見・判断を避けています。
4. 避難所となる学校等に、受け入れる車両や住民の検査・除染内容、基準の意味について伝えていくための問い合わせは、58%の自治体が「伝えていない」との回答でした。しかし、避難所となる学校等に汚染が持ち込まれてはなりません。検査・除染の具体的な内容を伝え、学校や保護者、施設管理者等と議論するべきではないでしょうか。

避難計画を案する関西連絡会/ ふるさとを守る高浜・おおいの会/ 安全なふる里を大切にしたい  
この件の連絡先: 関西3団体/ 京都市中京区田中町22-75-103 TEL: 075-761-7221  
委員の会: 大津市北区西天満4-3-3 星光センター TEL: 06-4367-6360 2023.3.●

## Opposing the Government's Efforts to Grant Life-Extensions to Aging Reactors

We urged Shiga Prefecture, the most liberal prefecture in the region, to oppose restart of Kansai Electric's aging reactor Mihama Unit 3. These citizen protests have resulted in the public, prefectures, cities, and towns raising concern about life-extension of nuclear power plants.



Meeting with Shiga Prefecture.

April 19, 2022



Addressing leaks at Mihama nuclear power plant, steam generator damage at Takahama nuclear power plant, pipe damage at the Ohi nuclear power plant.

August 16, 2022

美浜3号の運転再開を止めるため、長浜市北部で約7,000世帯を訪問  
**「原発事故で琵琶湖も余呉川も汚染される。農業もできなくなる」**  
 チラシや対話が種となり、次の芽吹きにつながってほしい

2022.8.26 避難計画を案ずる関西連絡会  
 美浜原発事故時の避難対象地域  
 約14,500世帯

私たちは老朽原発美浜3号の運転再開を止めるため、滋賀県長浜市の避難対象地域で、チラシを配布しながら戸別訪問を続けてきました。次の運転再開を止めようという思いで、昨年10月23日に美浜3号が運転を停止した翌日から、開始しました。今年7月までに、約7,000世帯、避難対象地域の75%を回り、計15回の訪問に延べ101名が参加、「湖北原発ゼロの会」の皆さんに協力していただきました。

8月上旬の豪雨では、湖北地域も洪水等の被害にあい、住民の皆さんの安全を心配すると同時に、自然災害と原発事故が重なれば、避難はできないことを改めて実感しました。

住民の皆さんの声をもって、美浜3号の運転再開に反対するよう滋賀県(7月29日)、長浜市(8月8日)、福井県(8月16日)にも申入れに行きました。戸別訪問で聞いた住民の皆さんの声から、いくつか紹介します。

(詳しい紹介は、避難関係の資料参考 [http://www.jca.go.jp/mihama/boosa/nagahama\\_shouka20220724.pdf](http://www.jca.go.jp/mihama/boosa/nagahama_shouka20220724.pdf))

- ほとんどの人が、避難先市町も知らない  
 県内避難先が東近江市、草津市、甲賀市であること、県外避難先が大阪府南市の市町と知っている人はほぼ皆無。長浜市がまだ避難所を公表していないことには驚きや怒りの声も。
- 原発から遠いため、反対とはつきり騒ぐ人、不安を持っている人が多い
- 琵琶湖の汚染に反対、余呉川の清流を守りたいとの声  
 琵琶湖は避難できず汚染され、大阪、京都の人々も飲めなくなる。余呉川も汚染され、農業もできなくなる。
- 避難できない避難先実態  
 避難先は管が多くて道路も号線も出ることも無い。自分で動けない人も多い。避難先に近い状態でも避難は無理。サービスの施設や福祉施設では、避難計画もできていない。
- 滋賀は被害だけ。事前了解の権限がないのはおかしいとの声も多い
- 市長や市に話してみる、チラシを広めてくれる人も  
 避難先のことまで安定ヨウ基調のこと、一回も聞いたことない。市長に会って話してみる。避難の駅にチラシを置いてあげる。
- 自然災害と原発事故が重なれば、避難はできない  
 避難所に流れてきた水が当たったら棚が落ちて流れへんようになる。ここから少し下がったところは土砂崩れが2回起きる。避難先でも公民館止まりになる。

◆戸別訪問を経て～チラシや対話が種となり、次の芽吹きにつながるように～  
 初の長浜市北部での戸別訪問でした。観光化された長浜駅周辺とは異なり、原発集落に近い湖北部の余呉町にはコンビニもありません。広い水田地帯を歩いて次の集落を目指したり、20分以上も原野について話し込んだり、遠い道をたどり寄り、多くの住民の皆さんとの出会いでした。チラシや対話が種となり、住民の皆さんの心に残り、次の芽吹きにつながりますように。

-1-

Addressing concerns of residents of Nagahama City located within evacuation range of aging reactor Mihama Unit 3.

(Delivering the voice of Nagahama residents from door-to-door canvassing.)

July 29, 2022





## Protests and Rallies



Public Protest Opposing Fukushima Nuclear Power Plant Radioactive Waste-Water Pacific Ocean Discharge Plan.

*Central Kyoto*

*April 18, 2023*

Annual Stop Nuclear Power Rally and March through central Kyoto on 12th anniversary of Fukushima accident.

*March 11, 2023*





## OUTREACH

Public Speaking Connecting Minamata and Nuclear Power.

We concentrated this year on speaking tours of junior high, high school, and universities – undertaking outreach to the young generation on issues connecting pollution and nuclear power, often using the Hollywood movie “MINAMATA” as an entry point.



**MINAMATA**  
(2020)

Directed by Andrew Levitas

The photojournalist W. Eugene Smith travels back to Japan where he documents the devastating effect of mercury poisoning in coaster communities, Minamata in Japan. Based on the Eugene and Aileen Smiths' book *Minamata*.

**OCTOBER 24 | 7:00-9:00PM**  
Paresky Auditorium

---



**MY 50-YEAR JOURNEY: MINAMATA FOLLOWED BY FUKUSHIMA...**  
*Lessons Learned for Today's Challenges*

A talk by **Aileen Mioko Smith**

Photojournalism, environmental justice, the Japanese anti-nuclear power movement. What are the lessons learned and how can they be incorporated into meeting today's challenges?

**OCTOBER 25 | 4:30-5:30PM**  
(followed by reception)  
Griffin 3

Sponsored by: Art Department, Anthropology and Sociology Department, Asian Studies Program, Center for Environmental Studies, Center for Global Languages, Literatures and Cultures, The Class of '46 WWII Lecture Fund, Department of Asian Languages, Literatures, and Cultures, The Lecture Committee, Political Science Department



フクシマを考えるフォーラム2023

福島原発事故をめぐる持続可能な社会のあり方を考える。福島県を舞台に、映画と対話。

**今も苦しむ人たち**  
水俣と福島から考える

参加費 無料

開催日時 2023年 2月18日(土) 11:00-17:00

会場 市川市文学ミュージアム グリーンスタジオ(市川市元町1-1-6) オンライン(ZOOMウェビナー)

午前の部(映画上映) 11:00~13:00  
映画「MINAMATA—ミナマタ—」(2020年、アメリカ、115分)

午後の部(講演・シンポジウム・活動報告) 14:00~17:00

講演 福島原発事故をめぐる何が起きているのか? 福島の未来をどう描くのか? 福島の未来をどう描くのか? 福島の未来をどう描くのか?



2022年度 龍谷大学 心の講座

参加費 無料

龍谷大学 響都ホール 校友会館

第1期 4/30	井上 見洋 氏 「そのまのぬい」 〜「上野の街」〜	第2期 5/28	川越 宗一 氏 「同を生きて」 〜「上野の街」〜
第3期 6/25	加藤 朝暉 氏 「白鳳文化への敬意」	第4期 7/23	佐々木 潤 氏 「現代社会の中の仏教」
第5期 9/17	長谷川 岳史 氏 「疫病と災害と仏教」 〜「上野の街」〜	第6期 10/14	長谷川 岳史 氏 「疫病と災害と仏教」 〜「上野の街」〜

Event at Rikkyo University (Tokyo) in support of the “Fukushima Childhood Thyroid Cancer Trial”  
“People Who Continue to Suffer – Addressing the Issue through Minamata and Fukushima”

February 18, 2023

(The event featured the movie “MINAMATA” and Green Action’s Aileen Mioko Smith. Panel: Thyroid cancer plaintiff, lawyer for the thyroid cancer trial, Rikkyo University journalism professor. Approximately 80 students from multiple universities attended the event.)



日本バプテスト連盟 公署問題特別委員会 特別講演会

「水俣とフクシマ、今できること」

なぜ水俣は終わらないのか？ 何故フクシマがなかったことにされ置き去りにされているのか？ そこに痛み続ける人々が今もおられること、その方々に思いを寄せる！

日時 2022年 5月30日(月) 19-21時

場所 会場：日本バプテスト京都教会  
・対面とオンライン(ZOOM)並行  
・ZOOM ID: 833 1355 7722  
・PASS CODE: 279833

講師 アイリーン・美緒子・スミス

<プロフィール>  
1950年、東京生まれ。68年スタンフォード大学入学。83年コンネチクツ大学で環境科学の修士号取得。70年ユージン・スミスの写真展「Let Truth Be the Prejudice (真実こそむかひ)」の展示制作を担当。その後ユージンと来日、結婚。71年秋から水俣病取材のため、水俣に3年間住む。75年写真集「MINAMATA」の英語版をユージン・スミスと出版。80年「水俣」の日本語版を出版(三一書房)。「かくれ切符」を写真集「運命の糸」(角川書店)でペンシルベニア州で撮影したスリ・マレー島島民の肖像を収録。83年以降、福井県若狭の環境の安全性の問題に取り組み、90年高速増殖炉計画に反対する「ストップ・ザ・もんじゅ」事務局設立に参加。91年、グリーン・アクション設立。2003-2011グリーンピース・ジャパン理事長。

お問い合わせ 公署問題特別委員会・日本バプテスト京都教会  
京都市上京区筑前口通河原町東入地屋町122-1  
TEL: 075-231-1351, e-mail: pastor@bjkc.or.jp

“Minamata and Fukushima – What We Can Do Now”  
Lecture by GA executive director  
Japan Baptist Church - Kyoto  
May 10, 2022

Ryukoku University series: “Lectures from the Heart”

Lecture by GA executive director:

“What We Can Learn from Minamata Disease Today” (The lecture connected Minamata to nuclear issues.)  
Hibiki Hall, Kyoto  
June 25, 2022

Bates College  
Lewiston, Maine  
October 24, 2022